

## 女子割礼の統一倫理的な評価

### 文鮮明師の御言と統一思想の観点から見た 女性性器切除に対する批判

by

増田善彦博士  
清心神学大学院・副教授

#### 0. 序論

この論文は、文鮮明師の御言と統一思想の観点から女子割礼の倫理的な評価を試みようとするものである。最初のセクションでは、文師の御言の観点から、人間の性器の意義を概説することにする。第2セクションでは、西洋のフェミニスト(女権主義者)たちがしばしば「女性性器切除」と呼んでいる「女子割礼」に関する問題を扱う。第3セクションでは、統一思想の観点から、女子割礼の終焉を促進する方法について論議する。理論的な枠組みに焦点を合わせて、「文化相対主義」と「西洋的フェミニズム」を批判するつもりである。さらに、ウェーバーの思想と統一思想の「中心の主管による法則」を紹介して、女子割礼の終焉を促進する上における、カリスマ的指導者の重要な役割について論議する。

#### 1. 文師の御言の観点から見た性器の意義

私たちは文師の御言における4つの観点から性器を評価する：即ち、1) 創造主の神様の観点、2) 性器を構成する原子の観点、3) 私たちが神様と一つになるという究極的目的の観点、そして、4) 人間の墮落の源と天国と地獄の門という観点、以上の4つの観点である。

##### 1.1. 最高の精誠と努力で神様によって創造された。

文師の御言によると、神様は最高の精誠と細心の注意を注いで、人間の性器を創造された。文師は、性器を創造される時の神様の偉大な努力と全精力を傾注された事を繰り返して指摘した。全知全能であり愛に満ちている神様は、最善を尽くされて、人間の性器を設計され、創造された。したがって、文師の御言を信じるならば、私たちの性器は神様のすべての創造物の中で‘神様の傑作’であると、私たちは、確信して言うことができる。

### 1.2. すべての原子が到達したがつている場所

文師によれば、すべての原子の究極的な望みは、本然の状態に復帰され完成した人間に到達して、その人の性器の一部になることである。それはなぜかと言うと、男女の生殖器は、人間が神様と一つになることだけでなく、原子と鉱物が神様と一つになることを可能にする愛の行為に、原子と鉱物もまた参加することができる、まさしくその場所だからである。

### 1.3. 私たちが神様と一つになることができる場所

人間の性器の目的は、人間の性行為の目的に密接に関連している。伝統的なキリスト教倫理学は、「子女出産の意味」と「一体化の意味」の観点から、性行為の目的について繰り返し論議してきた。一方、統一倫理学では、伝統的キリスト教倫理学が提示したこれらの二つの目的に加えて、人間の生殖器の別の究極的目的を指摘する。それは人間が神様と一つになる目的である。

### 1.4. 墮落の源であり、天国と地獄の門

私たちの人間の先祖は、生殖器の誤用で墮落した。文師は、人間の墮落の源として、生殖器を指摘した。人間は、先祖の不純な性関係のために、悪魔の血統を引き継いだ。文師によると、アダムとエバが神の愛を中心として、彼らの生殖器を使用したならば、彼らと子孫たちが地上天国を創建することができた。しかし、人間の性器は天国の門ではなく、地獄の門となってしまった。

## 2. 女子割礼の倫理的な評価

### 2.1. 世界の女子割礼の現況

女子割礼(女性性器切除)とは、何であるか? 最も簡単な分類は、次の2つのタイプから成る。1つ目のタイプが「陰核切除」である。もう一方のタイプは、「縫合：縫い合わせる事」である。この手術は、陰核を切除するだけでなく、小陰唇を切除した後に、麦わらのストロー程度の小さいサイズの穴だけを尿と月経血の通路として開けておいて、膣をふさぐために外性器を縫い合わせてしまうことを含んでいる。

女性性器切除の両方のタイプにおいて、主な目的は、女性たちが結婚前に容易に貞操を保つことができるように、若い女性たちの性欲を減少させることであるとされている。そのうえ、女性性器切除の2番目のタイプの場合では、そのような女性が最初の性交をするのは、非常に苦痛である。なぜならば、性交を完成するためには、性器の小陰唇が再び切り開かれなければならないからである。さらに、外性器の左右の小陰唇を切除して一緒に縫い合わせてしまうので、女性が処女であるかどうかを一目見ただけで見分けるのが、より容易になる。

したがって、女性性器切除を受けた若い女性たちは、結婚の前に容易に貞操を保つことができ、容易に適した夫を見つけることができると主張されている。これらが女性性器切除を正当化する理由である。

報告によると、毎日、約 6000 人の若い女性たち、すなわち 1 年間で、200 万人以上の女性たちが、思春期前に何らかの形で女性性器切除を現在経験している。その結果、地球上に住んでいる約 1 億 3000 万人の女性たちが、世界中で女性性器切除を経験したと推計されている。女性性器切除は、アフリカと中東の 20 カ国以上の国々で、依然として広く支持されている。

女子割礼は、回教徒の宗教上の義務的な儀式ではない。しかしながら、広範囲に女性性器切除を実践するほとんどの国が、回教国である。なぜかという主な理由は、回教徒たちは結婚前の女性の性的純潔を極めて重要視するからである。多くの回教国では、若い女性が結婚前に性関係を通して貞操を失った場合、家庭の名誉を守るために、その女性の父親か兄弟が彼女を殺すという、いわゆる「名誉殺人」の多くの事例を見ることができる。

したがって、女性性器切除は、回教社会で婚前性交渉の誘惑から若い女性たちを守るために、結婚前に処女性を保つことを強制する目的を持って生まれた伝統的な習慣と見なすことができる。

## 2.2. 女子割礼(女性性器切除)と回教の関係

多くの回教国で、女性性器切除の広範囲に及ぶ習慣を見ることができる。女性性器切除は、多くの回教指導者たちによって支持されてきた。コーラン自体は、女子割礼に関して何も記述していないので、現代の回教信者たちの中には、女性性器切除の問題に対しては、意見の不一致がある。

一般的に、ヨーロッパと米国に住んでいる多くの回教指導者たちは、女性性器切除について非常に批判的である。西洋に住んでいる現代の回教指導者の一人が、次の通り主張した。：

宗教的回教の価値ある経典の中で、女子割礼を支持していると見なせるものは無い。

それにもかかわらず、アフリカや中東の回教の聖職者たちや学者たちの中の合意内容は、次のようである。「マホメットによって明確に命令されていないとしても、女子割礼は良いことである。主として、なぜかという、女性の性欲を制限して、その結果、彼女の道徳を保護するからである。」

## 2.3. 統一運動的観点から見た女子割礼(女性性器切除)の評価

私たちは、若い女性が結婚前に貞操を容易に守る事が出来るという事実に、女子割礼の主な利点を見つけることができる。社会が、結婚前の貞操に非常に貴重な価値を付けるとき、女子割礼の有用性は、それに従って増加する。

女子割礼の悪い効果に関しては、多様であり、しばしば、それぞれの女性の運による。それにもかかわらず、副作用としての悪い結果は、たくさんあるので、容易にそれらを指摘できる。例えば、ゴラハは、次のように、それらを指摘した。

副作用は多様である。手術時において、より大きな危険は、出血とショックである。それによって、毎年、数知れない多くの犠牲者たちを生み出している。そし

て、大部分の少女たちは生き残るが、多くは手術に関連して慢性的あるいは急性の症状を経験している。

私の意見では、これらのような悪い効果を考えるとき、どんな親も容易に女子割礼を推薦できない。

それにもかかわらず、アフリカと中東の多くの回教徒の親たちは、割礼を受けるように娘たちを説得することに、何のためらいを持っていないように思える。それは彼らの娘が、生命や健康を失う事より、純潔を失うことの方を、より恐れているからである。回教徒の親たちにとって、女子割礼は「貞操帯」を娘につけるのと同じことである。彼らは、娘の幸福な結婚のために、結婚前の貞操が絶対に不可欠であると、深く確信している。彼らは、自分の娘たちが割礼を受けないと、結婚の資格を有する者にならないことを恐れている。

結婚前の性的純潔の重要性に関して、回教の性倫理観と統一運動の性倫理観の間に類似している部分が存在している。女性会員たちに性的純潔の重要性を教えて、文師は繰り返して、命を懸けてでも純潔を守らなければならないと語っている。：

どのような男性でも、統一教会の女性を思い通りにすることはできないのです。危急の時には、みんな命を断つか、刃物で相手の腹を突き刺して殺すか、二つのうち一つをとるのです。分かりますか。

貞節は命よりも貴いものです。<sup>1</sup>

統一運動家たちは、回教徒たちに勝るとも劣らず、女性の性的純潔の重要性を強調して来た。「純潔は生命より重要です」と、文師は明確に述べている。

しかしながら、統一運動家たちは、貞操を保護する手段には、同意しない。統一神学によると、私たちが原罪を清算して、創造本然の健全な状態を復帰することができる新時代が到来した。言い換えれば、現在は私たちが本心と意志力を十分に回復することができるので、結婚前に純潔を守ることができる時代が到来したのである。男女に貞操を守るように教える真の父母の使命について、文師は次のように話された：

男性は、男性の生殖器を千年、万年きちんと守る主人にならなければならず、女性は、その生殖器を千年、万年きちんと守る女性になりなさいと教えるのが文総裁です。そのようにこれを間違いなく守るようにして、そのようにさせる責任を負った人が、「真の父母」の名前をもった父母だということです。真の父母は簡単です。浮気者の女性と男性を連れてきて、浮気をせず絶対的に節操を守る男性と女性にすることができる力を持った人が真の父母です。(1995年8月28日)<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 文鮮明、『祝福家庭と理想家庭(1)』(東京：光言社、1998)、471頁。

<sup>2</sup> 文鮮明、『宇宙の根本』、182-183頁。

したがって、統一運動家たちは、真の父母としての文鮮明師ご夫妻は、性的不道德の問題を解決する力を持っていると信じている。真の父母様の出現の結果、女性性器切除の必要が全くない新時代が明けた。女性性器切除を受けることなしに、若い女性たちは、結婚前に性的な純潔を今や守ることができ、祝福結婚式に参加して、神様を中心とした幸福な家庭を築くことができる。言い換えれば、統一運動家たちは、女性性器切除の動機と目標に非常に同情的である。しかし、彼らは、女性性器切除のような残酷な手術をしなくても、結婚前に貞操を守って、幸福な結婚に到達するという同じ目標に達することができるかと主張する。

### 3. どのように女子割礼の終焉を促進するか:

#### 統一思想と対照した「文化相対主義」と「西洋的フェミニズム」に対する批判

##### 3.1. 統一思想と対照した「文化相対主義」

文化相対主義は、女子割礼の習慣を変えようとする国際的な圧力に抵抗するように、多くの国々に大義名分を提供した。また、それは国際的な学者たちを動員して女子割礼に反対する時に、知的な障害になった。

文化相対主義は、善悪の規準がそれぞれの文化に相対していると言う倫理論である。「善」とは、与えられた文化の中で「社会的に是認されている」ことである。そして、私たちの道徳的規範は、私たちの文化の規範に基づいている。文化相対主義者たちは、他の文化の慣習を批判することを、差し控えることになってしまう。人類学者たちは、文化相対主義を支持する傾向がある。しかしながら、文化相対主義を支持する哲学的倫理学者たちは、ほとんど皆無である。その理由の一つとして、文化相対主義は、少数派有色民族に対する白人たちによる人種差別や、ユダヤ人に対する反ユダヤ主義などの人種差別を肯定することになってしまう。

人類学の学界における自己文化中心主義に対する厳しい批判は、多くの人類学者たちを、他の文化を批判することをためらわせて、文化相対主義の是認に導いた。したがって、文化相対主義は、アフリカの女子割礼の習慣を終わらせるために、人類学者を動員することにおいて、知的な障害になった。

対照的に、統一思想は、文化相対主義に強く反対している。統一思想は善の普遍的で客観的な規準の存在を明確に支持している、アフリカや他の回教国における女子割礼の習慣を終わらせるために、学究的な世界を動員したいと思うなら、私たちが、普遍主義の立場の支持者数が増加するように努力することが重要である。

##### 3.2. 統一思想と対照した「西洋的フェミニズム」(女権擁護主義)

第二に、女性性器切除のいくらか見当違いの、そして、効果がない批判のゆえに、西洋的フェミニズムを批判する。私の意見では、ホスケン・レポートなどの西洋的フェミニストたちの批判に関する主な問題点は、個人主義的な人権の強調である。ホスケンの主な関心事は、性的な快感(絶頂感)を感じる個々の女性の権利であるように思える。概して、西洋のフェミニストたちは、結婚前の処女性の絶対的重要性に同意しない。彼らは処女性に対するそのよ

うな要求を、「普遍的な男性による支配体制」の象徴として見る。西洋的フェミニズムの個人主義的、そして、反宗教的なエトスは、神様への不動の信仰を持ち、家族全員と一族が強く一体化しているアフリカ及び、回教の伝統に対して、異質的であり、敵対的である。西洋のフェミニズムは、家庭関係、特に「血統」を構成する縦的な親子関係を重要視する価値観に欠けている。したがって、彼らの良い意図にもかかわらず、女子割礼に対する西洋のフェミニストの声は、しばしば逆効果的であった。なぜならば、アフリカと回教の伝統で、長い間、大切にされてきた結婚前の処女性の重要性和家族全員の一体化の両方を、過小評価したからである。

対照的に、統一思想の世界観は、個人主義的ではなく、また反宗教的でもない。統一思想は、伝統的なアフリカの見解と同様に、家族全員の一体化と両親や先祖との縦的な関係に深い関心を持っている。文師は、血統の重要性を、愛と生命の重要性よりも強く強調した。

統一思想によると、人間の先祖は、彼らの生殖器を誤用することによって、神様の貴重な血統を汚して、失った。私たちの血統を守ることは、生殖器を守ることを意味する。なぜなら、私たちの生殖器だけを通して、血統を創造し、維持することができるからである。

西洋のフェミニストたちの観点と異なって、統一思想は、「三大王権」の新しい概念を紹介することによって、家族全員の統一に関する深い関心を提示している。統一思想は、全ての存在物が、独立した存在物として存在するのではなく、二重目的を持つ「連体的存在」として存在することを認識している。統一思想は、全ての存在物には、個体目的と全体目的があると強調する。

### 3.3. カリスマ的権威と統一思想の「中心の主管の法則」

女子割礼の終焉を促進する方法を理論化することを念頭において、最も可能性の高い文化変容の過程について論議したいと思う。ウェーバーは、3つのタイプの権威について明察することによって、社会文化変容の過程を分析した：1) 伝統的権威、2) カリスマ的権威、3) 合理的法的権威である。ウェーバーによると、カリスマ的な指導者の出現が、伝統的な権威を構成する古い慣習や習慣に対して、急激な、そして、深遠な変化を引き起こすことを、しばしば可能にした。歴史上でのいわゆる「文化的な突破」(文化における突然の重大な変化)を引き起こしたのは、カリスマ的な指導者である。

一般的に、統一思想は、社会文化変容における中心人物の重要な役割を認識している点に関して、ウェーバーに合意する。統一思想は人類歴史を誘導した「創造の法則」の1つとしての「中心の主管の法則」について論議して、中心人物の重要な役割を提示している。統一思想の教科書は、次のように説明している。

復帰歴史において、神は中心人物を立てて、彼を通じて神の摂理にかなう方向、すなわち善なる方向へ社会を導かれるのである。

したがって、「中心の主管の法則」の観点と、ウェーバーの見解から、私たちは、女子割礼の終焉を促進する中で最も効果的なコースが、カリスマ的権威の発展であると主張できる。

女子割礼を実践する多くの国が、強い一神教の文化に属するので、私たちは、カリスマ的な「倫理的な予言者」を動員しないでは、そのような文化における社会文化変容を引き起こすことは、失敗するように運命づけられているとすることができる

私の意見では、女子割礼の終焉を促進する最も効果的な方法は、神様からの直接のメッセージとして明確な倫理的な要求を宣言する反割礼的な「倫理的な予言者」の活動を奨励することである。

統一思想の世界観は、宗教的であって神中心的である。統一思想の創設者文師は、現代で最もカリスマ的な倫理的な予言者として現れた。したがって、文師の統一運動が、これから先、アフリカや回教国における女子割礼の終焉を促進することにおいて、大きな助けになることに対して、私は疑問がない。

#### 4. 結論

男性と女性の割礼の古い習慣は、人間の生殖器には何か問題があって、人間がこれらの器官を通して、墮落した不純な血統を引き継いだことを、それとなく示している。

しかしながら、真の父母としての文鮮明師と夫人が、結婚前に、なぜ、どのように純潔を守るべきであるかについて、明確に私たちに教えることができるこのような新時代には、女子割礼を必要としない。

この論文では、私は、女子割礼の世界における現況を提示して、女子割礼はこの新しい「後天時代」には、もはや必要ではなくなったと断言した。私の意見では、「文化相対主義」と「西洋的フェミニズム」を批判して、統一思想は世界の女子割礼の終焉を大きく促進することができる。